

わが

「新幹線が拓く輝きのまち北斗」 歴史や文化、資源を生かす豊かな環境都市

はじめに

北斗市は、平成18年2月1日、旧上磯町と旧大野町が新設合併し、北海道内35番目の市として誕生しました。市名は一般公募の中から決定していますが、「北の空(大地)に燦然と光り輝く星(まち)」や「個性を失わず独自の輝きをもつまち」などの思い、また、北斗とは「小さな星が固まりあって1つの核をなす」とも言われており、上磯と大野の2つのまちが、



静ひつな佇まいのトラピスト修道院

1つの北斗をつくり上げ、まちづくりを進めていこうという願いが込められています。

本市の基幹産業は、北海道の水田発祥の地として1600年代後半から稲作が営まれ、農業と漁業を中心に発展してきました。肥沃で実り豊かな大地と函館湾に面した資源豊富な海もあり、新鮮で、おいしい農水産物が特産品です。また、鉱業では、無尽蔵ともいわれるほどの石灰石の宝庫、峩朗鉱山を持ち、それを原料としたセメント製造が120年以上も前から行われています。観光面では、日本に2カ所しかない男子トラピスト修道院や眼下に北海道一の広大なパノラマが広がり、絶景が自慢のきじひき高原、国指定史跡の松前藩戸切地陣屋跡など多くの見どころがあり、四季折々の色彩感

あふれる美しい自然にも恵まれたまちです。

新幹線とまちづくり

平成17年5月、待ちに待った北海道新幹線新青森・新函館(仮称)間の建設工事が始まりました。本市には、南北海道における拠点駅として、新駅が設置されることとなっており、平成27年度末の開業を目指し、鉄道運輸機構による本線建設工事や車両基地整備工事が順調に進められ、本市が施工する新駅周辺地区の土地区画整理事業も順調に進んでいます。

に生かすまちづくりが求められています。商業地の分譲は、平成25年度からの予定ですが、まずはソフト面から企業立地を促進するため、本年度から補助制度を設け、現下の厳しい経済情勢の中にあっても、民間資本による投資を誘発し、経済活動を行うための都市機能の創出と雇用機会の拡大につなげてまいりたいと考えております。

地域資源を生かした体験型観光の確立

新幹線開業により全国各地から大勢の方々北海道を訪れるようになります。そのお客さまをもてなすため、市内に数多くある観光資源について、その魅力や発展の可能性をさまざまな角度から調査研究しています。その中でも、豊かな自然環境と基幹産業である1次産業を生かした体験型観光は、観光振興策の柱になるものと考えています。具体例として、農業では田植え体験や各種野菜の栽培作業、

収穫体験、観光農園における果樹収穫体験、漁業では地引き網体験やサケの遡上(そじょう)を活用した体験、フノリ摘みやアサリ採りの体験。また、熟練した技術が必要となりますが、伝統のホッキ突き漁によりホッキ貝を収穫してもらうことも検討しています。これから農業者や漁業者、商工業者など、担い手となる方々と意識を共有し、連携を深めながら体験型観光の確立に力を注いでまいりたいと考えています。

南北海道一の絶景が自慢のきじひき高原

市内の木地挽山全体に広がり、素晴らしい眺望が自慢のきじひき高原では、津軽海峡や函館山、水田が広がり季節によってさまざまな姿を見せてくれる大野平野、大沼小沼、駒ヶ岳までがパノラマの風景で一望でき、高原牧場ならではの絶景をご覧いただけます。緑豊かな大自然の中で、北海道らしい雄大さと新鮮な空気、素晴らしい景観が楽しめるきじひき高原は、本市の観光資源の中心的な役割を果たすことが可能だと思っています。立地条件も新幹線新駅に近い場所にあり、国道とのアクセス条

件も良く、既存の市営牧場、キャンプ場、匠の森公園などの施設も整っていますので、新幹線開業に間に合うよう、きじひき高原の活用策に取り組んでまいります。

観光とスポーツの連動

総合運動公園内にある陸上競技場の全天候型トラック改修の完成に伴い、平成23年度からスポーツ合宿の誘致に取り組み始めました。市内の上磯ダムや八郎沼公園の周辺、きじひき高原などのアップダウンに富んだ地形は、トレーニン

グに最適な環境であると、専門家の方から高い評価をいただいております。初年度は9団体、202人の選手が訪れ、延べ宿泊者数は1012人となり、出だしとしては好調という感触を得ています。合宿誘致を進めることは、市内の宿泊施設が利用されること、宿泊施設では新鮮な地場産品を使用してもらうこと、有力選手が集まることでのマスコミ効果、さらには、子どもたちにも有力選手を身近に見て、指導を受けることよって、能力、やる気のアップなどといった、二次的、三次的な波及効果もあると考えています。

むすびに

本市は人口5万人の小さな都市ですが、新幹線開業を契機に、前述した取り組みにチャレンジし、都市としてのクオリティ、ブランド力を高め、「新幹線が拓く輝きのまち 北斗」の実現に取り組んでまいりたいと考えています。



稲刈り作業を楽しむ子どもたち

プロフィール

- ◆面積 397・30km²
- ◆人口 4万8945人
- ◆世帯数 2万1439世帯

〔将来都市像〕「あなたが主役 可能性を未来に」 「歴史や文化、資源を生かす豊かな環境都市」 新幹線が拓く、輝きのまち

〔まちの特徴〕新幹線効果を生かして、全道一、元気なまちづくり

〔市町村合併〕平成18年2月1日、上磯町と大野町の新設合併



北斗市長 高谷寿峰



〔特産品〕海の宝物…ほっき貝、ほたて貝、煮干いわし、ホヤ、塩蔵わかめ
大地の宝物…北海道、トマト、マルメロ製品、トラピスト修道院製品

〔観光〕きじひき高原、松前藩戸切地陣屋跡、トラピスト修道院、男爵資料館、七重浜海浜公園

〔イベント〕北斗陣屋桜まつり、北斗市夏まつり、北斗市商工観光まつり、北斗市茂辺地さけまつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

安全で安心して暮らせるまち 一人ひとりが輝き、支え合うまち

はじめに

西東京市は、平成13年1月21日、21世紀に入り全国に先駆けて旧田無市、旧保谷市との都市型の対等合併により誕生した東京都で最も新しい市です。



田無駅北口をのぞむ

東京都の中央北部、武蔵野台地のほぼ中央に位置し、東は練馬区、西は小平市と東久留米市、南は武蔵野市と小金井市、北は埼玉県新座市に隣接し、緑に恵まれ、利便性が良く、衣食住のバランスが取れたまちです。

合併10年の成果と課題

本市は、平成16年4月から新市建設計画を含む西東京市総合計画をスタートさせ、東京大学原子核研究所の跡地を活用した合併記念公園「西東京いこいの森公園」の整備、市内5ルートで運行するコミュニティバス「はなバス」などの事業を進めてきました。

そのほかにも保谷駅南口地区再開発、ひばりヶ丘駅北口地区の街路整備や東京都と連携しての都市計画道路の整備、小中学校の建て替えや保育園・児童館、福祉会館(ルピナス)や障害者総合支援センター(フレンドリー)の整備など、合併

画、日常生活の利便性や地域環境のさらなる改善を図るための西武線の連続立体化計画も視野に入れ、着実な推進をしていく必要があると考えています。



西東京市マスコットキャラクター「いこいな」 ©シンエイ/西東京市

し、市内には西武池袋線と西武新宿線の私鉄2路線とバス路線が通り、新宿や池袋まで20分弱と都心へのアクセスに優れています。

特別債をはじめとした財源を有効に活用しながら、都市基盤整備や教育・福祉施設の充実を図ってきました。

現在、合併当時に18万人弱であった本市の人口は、19万8000人ほどに増加しています。これは、都心へのアクセスが良いという立地条件に加え、これまでのまちづくりの成果により、多くの人々に選択して居住していただける生活文化都市が形成されてきたことが要因とされています。



連携事業:早稲田大学「少年野球教室」

未来への展望

新市誕生から11年目を迎えた本年は、これまでの合併による成果と課題を振り返るとともに、未来へ向けての展望を明らかにしていく必要があります。特に平成23年3月11日に発生した東日本大震災の教訓を踏まえ、安全で安心して生活できるまちづくりや、地域の絆と地域コミュニティの再構築を図ることが重要です。

本年度は、平成26年度からの次期総合計画の策定に着手する重要な年になります。そのようなことから、中長期的な視点に立つてのハード、ソフト両面での取り組みが求められています。



市民スポーツまつり

ハード面では、安全で安心して暮らせる都市基盤をつくるための都市計画マスタープランの見直しや駅周辺のまちづくり、都市計画道路の整備、東京大学西東京キャンパスとその周辺の地区計

画、日常生活の利便性や地域環境のさらなる改善を図るための西武線の連続立体化計画も視野に入れ、着実な推進をしていく必要があると考えています。

むすびに

長い歴史を背景に誕生した本市のまちづくりはこれからです。今後も行政改革に取り組みすることで、効率的で無駄のない継続可能な自治体経営を進めるとともに、地域

主権の時代に対応できる自立的な市政の実現を図ってまいります。そのことにより、市民がより安全で安心して暮らせる生活環境を実現し、一人ひとりが輝き支え合うまち、西東京を目指してまいります。

プロフィール

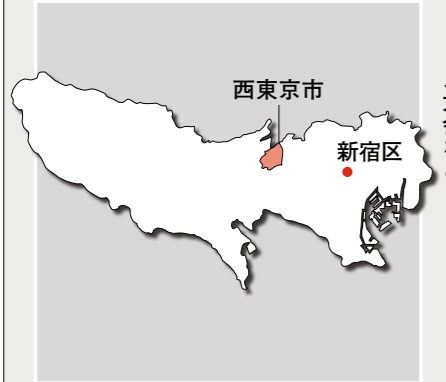
- ◆ 面積 15・85km²
- ◆ 人口 19万7729人
- ◆ 世帯数 9万1093世帯

〔将来都市像〕安全で安心して暮らせるまち、一人ひとりが輝き支え合うまち西東京

〔まちの特徴〕都心から約20kmに位置し、都心へのアクセスが良い。衣食住のバランスが取れている。都市と農業が共存し、都心に比べ緑が多い。宿場町としての歴史性とハイテクやアニメ産業などの先端性を併せ持つまち



西東京市長 坂口光治



〔観光・施設〕武蔵野大学キャンパス、東伏見稲荷神社、早稲田大学東伏見キャンパス、ダイドードリンコアイスアリーナ、田無神社本殿・拝殿(都指定文化財)、下野谷遺跡公園、西東京いこいの森公園、シンエイ映画本社、シチズン時計本社、多摩六都科学館、スカイタワー西東京、東京大学西東京キャンパス(生態調和工学機構)、玉川上水と小金井サクラ、ひばりが丘団地など

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「森・里・街がきらめく ふるさと南丹市」を目指して

はじめに

南丹市は京都府のほぼ中央に位置し、平成18年1月1日に園部町・八木町・日吉町・美山町の合併により誕生しました。市の大半を丹波山地が占め、水と緑の豊かな地域で、太平洋に注ぐ淀川水系と、日本海に注ぐ由良川水系の平地分水界がある非常に珍しい地形が形成されています。

近年は、JR嵯峨野線京都園部間の複線化開業や京都縦貫自動車道の延伸など交通網整備が進み、京阪神通勤圏内としての利便性が大幅に向上しました。また、多くの大学や専門学校などが立地し、学生が行き交うまちとしての特徴もあります。

広大な自然林が広がり、貴重な動植物が生息する「芦生原生林」、

京阪神の水がめといわれる「日吉ダム」、四季折々の美しさを見せる名勝地「るり溪」、桜並木で有名な「大堰川河畔」など多くの観光資源があり、年間約170万人の来訪者があります。

そこには本物があります

本市を代表し、世界に誇れる観光資源は「美山・かやぶきの里」です。平成5年当時に全国で唯一、地元住民100%合意による国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。現在、約50戸の集落の8割がかやぶき屋根の民家で、残存率日本一と言われており、ここのかやぶき屋根は、北山型の入母屋造りの美しい女性的な雰囲気の特徴で、日本一美しいかやぶき屋根とも呼ばれています。雛壇状の緩い傾斜地に美しいかやぶき屋根が立ち並ぶ風景はま

るでとき話の舞台のようです。

年間約70万人の観光客が訪れる観光地ではありますが、商業的な観光地とは違い、集落内は日常の暮らしの場で、山里ならではのゆつたりとした時間が流れています。一層多くの観光客でにぎわう春と秋の防火放水銃による一斉放水、寒い冬を暖かく照らす「雪灯廊」も里の暮らしの延長にあります。

日々の暮らしの中で観光客を温かく迎え入れる、地域に根ざした「本物の観光」がここにあります。ぜひ日本の「このふるさと」へお越しいただき、かやぶきの里のおもてなしをご堪能ください。

50歳からの住みよいまち
子育て支援のまち

平成23年、講談社から発行



防火放水銃によるかやぶき屋根への一斉放水

い評価をいただきました。

一方、子育て家庭を支援するサポート体制も充実しています。市の独自施策として、子どもの出産を祝福する子宝祝金をはじめ、小・中学校入学の際の入学祝金、5歳未満の子どもを養育している方への子育て手当および小学校入学から18歳までの医療費助成など、国や京都府の制度に加え、全国的にも誇れる独自の子育て支援策を展開することで、子育て家庭の経済的負担を軽減し、安心して子どもを生み育てることができる環境の整備に取り組んでいます。

ものづくりのまちづくり

本市には、特有の地域文化や豊かな自然環境の中で、多彩なもののづくりの職人や作家などが多数活躍されています。また、京都の新



全市民の1割が参加した「マイ箸マイ茶碗運動」

産業拠点となる工業団地「京都新光悦村」においては、伝統産業と先端技術の融合をコンセプトとした新しいものづくり活動も展開されています。そして全国から注目される京都伝統工芸大学校とともに、本年4月には国内唯一の「工芸学部」を有する京都美術工芸大学が開学するなど、「ものづくりのまち」としてほかに類を見ない魅力と特性を有しています。

平成23年秋には「第26回国民文化祭・京都2011」が開催され、本市においては美術展「工芸」を主催し、市民参加の関連事業を織り交ぜて多くの来場者をお迎えすることができました。また、市民意識醸成のために平成22年度から取り組んだ「マイ箸マイ茶碗運動」では、市民のおよそ1割が参加する成果を得ました。

今後、国民文化祭の取り組みを生かし、さまざまな分野のものづくりを発展させ、「ほんまもん」を知り、生み出し、はぐくめる「技や心」を高め、もの・技が光り、そして大人も子どもも、つくり手も使い手も、すべての人が輝く「ものづくりのまち南丹市」として、全国にアピールしていきたいと考えています。

結びに

本市では、平成22年4月に「南丹市市民参加と協働の推進に関する条例」を制定し、それに基づき市民中心のまちづくりを進めています。市民の主体的な取り組みを支援する交付金制度の創設により、「自らの地域を自らの手で守り育てよう」という志を持った団体、グループ、NPO法人などが立ち上がり

ました。それぞれの課題を自らの手で解決を目指す活動が進み、市民力の強さを感じています。数多くの素晴らしい地域資産を磨き、市民の皆さんと手を携えて厳しい時代を乗り越え、市民の皆さんが「任んで良かった」と思えるまちづくりを、また次世代を担う子どもたちが誇りを持ってふるさと南丹市で生きることができるよう、ちづくりを進めていきます。

プロフィール

- ◆ 面積 616・31km²
- ◆ 人口 3万4280人
- ◆ 世帯数 1万3668世帯

〔将来都市像〕森・里・街がきらめくふるさと南丹市

〔まちの特徴〕京都府のほぼ中央に位置し、日本海に注ぐ由良川と、太平洋に注ぐ淀川水系大堰川が流れる豊かな自然に恵まれた「心のふるさと」

〔市町村合併〕平成18年1月1日、園部町、八木町、日吉町、美山町の4町が合併



南丹市長 佐々木稔納



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

を語る 4

にしのおもて **西之表市** (鹿児島県・種子島) — 西之表市長 **長野 力**

絆で創る、魅力あふれる 豊かなまち

はじめに

種子島は、九州本土最南端の佐多岬から南東方向の約40kmに位置する細長い島で、1市2町で構成されています。北部と豊かな漁場である馬毛島は重要港湾西之表港を有する「海の玄関口」、西之表市、中部は空港を有する「空の玄関口」



種子島火縄銃の試射の様子

中種子町、南部は世界一美しいといわれるロケットセンターを有する「宇宙への玄関口」南種子町です。地形は、地域の大部分が海岸段丘で、最高点は270mと比較的平坦です。気候は、年平均気温が19.7℃と黒潮の影響で温暖であり、ブソウゲ(市の花木)の真紅の花にツマベニチョウ(市の蝶)が舞い飛ぶ姿は南国情緒にあふれています。

種子島は、古くから日本本土と琉球・中国・東南アジアなどを結ぶ海の道の要衝にあり、火縄銃やからいもなどが日本で初めて伝来したことも有名で、種子島の島主・種子島家の居城が置かれた「赤尾木」(現在の西之表市に位置)は、交易の接点として重要な役割を果たしました。その後、明治22年に北種子村、大正15年に西之表町、昭和33年10月に西之表市へと変遷



市制施行50周年を記念して制定された西之表市のシンボルマーク

を続けており、種子島の物流・経済・行政の中心地となっています。

市の重点課題

一方で、既存産業の衰退や所得水準の低下により、雇用の場が失われ、生産世代、特に若い世代の人口流出は顕著です。また、過疎化、高齢化が進み、地域に活気がなくなり、従来、地域が担っていた多くの機能が失われつつあります。

これらことから、生活基盤の安定や雇用環境の充実、そして、子育て支援や地域づくりなど、暮らしやすい環境づくりが求められています。併せて、地域が持続できる多様性のある発展的な仕組みづくりを模索し、共生・協働による自発的な地域の再生が求められています。

本市のまちづくりの将来像を見

を期待し、今後も受講生の生活支援を行いながら、新規就農者の育成に努めたいと考えています。

子育て支援

子育て世代の負担軽減と、子育てしやすい環境づくりに努め、「育てやすいから、産みたい」と思えるまちづくりを目指し、施策の展開を図っています。

公立保育園3園については、4月からそれぞれの校区が主体となって設立した社会福祉法人で運営する運びとなりました。今後これらの保育園が地域の未来を担う子どもたちの健全な発育と、地域に根ざした子育ての拠点となることを期待しています。

また、子どもの出生をお祝いし、子育て家庭の経済的負担を支援するため、子育て応援券を支給する「子育て応援券支給事業」を実施し、子育て環境のより一層の充実を図りたいと考えています。

地域の再生

過疎・高齢化の進行する市の周辺部の維持・活性化を図るため、市の中心部と周辺部を結ぶ新たな地域公共交通の研究に取り組んできました

魅力あふれる

が、本年2月1日から、市内全域を対象としたデマンド型乗合タクシー「どんがタクシー」と市街地巡回バス「わかさ姫」の実証運行を開始しました。この運行により、利便性の向上と、市全体の活性化も徐々に図られていくと期待しています。今後も見直しを図りながら、商店街などの賑興をはじめとして、ほかの波及効果を生み出す方策も模索しつつ、取り組みを続けたいと考えています。

また、市の職員が各地域のサポートをする地域担当者制度の拡充を図りながら、地域の裁量性が高い地域活性化交付金などの補助金を創設するなど、減退の著しい自治会の機能強化を支援する施策に取り組んでいます。

おわりに

火縄銃伝来にまつわる史実をはじめ、数多くの遭難者を受け入れた種子島の精神文化は、現在では新しい人生をゆつたりとした時間

プロフィール

- ◆ 面積 205.78km²
- ◆ 人口 1万6935人
- ◆ 世帯数 8239世帯

〔将来都市像〕絆で創る、魅力あふれる豊かなまち

〔まちの特徴〕豊かな海に包まれ、歴史と文化の薫り高く、人情味にあふれたまち

〔特産品〕安納いも、黒砂糖、焼酎、種



西之表市長 長野 力



子鉄、種子島包丁、種子島焼、ニガタケ、ナガラメ、トビウオ
〔観光〕種子島開発総合センター(鉄砲館)、浦田海水浴場、能野海水浴場、あっぱくらんど
〔イベント〕種子島鉄砲まつり、TANEGASHI MASCUP(ヨットレース)、種子島サンセット車いすマラソン大会



新たな地域公共交通サービス「どんがタクシー」と「わかさ姫」の出発式

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。